

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- ごあいさつ … 2~4
- 客員教授のご紹介 … 4
- 創立125周年／夢をかなえるセンター紹介／さがっば・ジョーのご紹介 … 5
- **特集** 2023年度入学式 … 6~7
- 学園各部報告 … 8~10
- 同窓会だより／6月以降開講講座のお知らせ … 11
- マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

「温故知新」

「アーカイブ室のこと」

学校法人相模女子大学
理事長
風間 誠史



ようやくコロナ禍からの出口が見え、昨年度は基本的な教育活動は「対面」で行われ、学園最大の行事である相生祭も「リアル」で実施することができました。今年度はさらに「リアル」な活動を活性化するとともに、この間に身に着けた「リモート」の環境やスキルをどう「リアル」と組み合わせ、生かしていけるのかを検証する年になると思っています。

そうしたなか、学校法人としては二年後の創立百二十五周年に向けた様々な計画をいよいよ具体化していくこととなります。今回の周年事業では、少子化ひいては人口減少社会のなかで、私たちの学園がどのような展望を持って教育事業を継続していくのかを明らかにすることが求められています。

そうした将来展望の前提となるのが、これまでの学園の歩み、歴史であることとは言うまでもありません。言うまでもないのですが、実のところ本学園は必ずしもそうした歴史をしっかりと伝えてきていませんでした。そこで、周年事業の一つとして、学園の歴史を整理し、収集し、公開するための組織、学園アーカイブ室（仮称）の設置を検討し、今年度はその設置準備室を開設しました。本学園の成り立ちや歴史についての資料発掘や収集も行うとともに、近年の学園の動きに関する資料などもしっかりと残せるようにしたいと考えます。たとえばこの間の新型コロナウイルスに対する諸対応なども、やがて重要な歴史の一コマになるはずですよ。

広く内外の方々の知見を生かしながら、本学の歩みを不断に省みることでできるような場を作ればと願っています。そして過去の歴史をしっかりと踏まえながら、新しい学園の歴史を作っていきます。古きをたずねて新しきを知る。『論語』に記された学びの基本であり、それは人が、組織が、前に進むための基本でもあると思います。

まもなく創立125周年を迎える女子大学として

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長
田畑 雅英



最近、ある集まりで、ゲームが行なわれるのを見ました。たとえば「おにぎりと食べば」という出題に対して、「鮭」「梅干」などと各自が答え、最も多数になった回答をした人たちに点数が与えられるというルールで、つまり最大多数派に属していることが評価されるゲームでした。そこで私が興味深いと思ったのは、ずいぶん以前から日本社会の付和雷同性、つまり「出る杭」になることを避ける傾向が批判されていながら、このゲームはその批判に逆行して、まさに「出る杭」にならないことを評価するものであったことです。以前に流行った「空気が読めよ」という言い方も、大勢に従うことを求めている点で、これと似通っているように思います。それが日本社会の安定をもたらしつつあるという側面はあるのかもしれませんが、いずれにせよ、私たちの社会は、掛け声はあっても、なかなか変りにくい体質を持っているとあらためて感じた次第です。

「男女平等」の大前提のもとに、「男女共同参画」の推進が社会的な課題と認識されて久しいにもかかわらず、社会全体としてはその実現がまだ道半ばで、遅々として進まないという実情も、上記の日本社会の特質を反映していると思われまふ。今さら申し上げるまでもなく、本学は創立以来125年近くの間、一貫して女子教育に携わってきました。最近また女子大学についてのさまざまな意見を見聞する機会が増えましたが、女子大学という環境は、学生から見れば、男子に気兼ねすることなく、また男子に頼ることなく、女子だけで活動できる場です。女子大学においては、すべての教育設備、カリキュラム全体を女子だけのために運用することができます。それによって、女子自らが社会を変えていく力を涵養できるはずです。その有用性は（あるいは残念ながらと言うべきかもしれませんが）現在の日本においてもいまだに失われてはいないと考えます。今後とも、本学の教育にご理解とご協力、そしてご意見やご叱正を賜れば幸いです。

2023年度を 迎えて

中学部・高等部
校長
武石輝久



中学部・高等部は4月6日(木)無事入学式を終えました。感染対策が緩和され、来賓の方々、保護者・ご家族が見守る中、午前の部で高校生35名、午後の部で中学生84名の新入生は、真新しい制服に身を包み、胸を張って新たなスタートを切りました。

入学式で私は新中学1年生に、「誰でも新しい環境に入る時には不安になるものだが、心配事の79%は実際に起こらないという研究結果がある。まだ起きていない未来について悩むよりも、思い切って『物語の主人公』になる。そうなるための出会い・環境・学びがこの学校にはある。」と伝えました。また新高校1年生には、「『デジタル革新』が進み、人と人とのつながり方や社会、経済の形が大きく変わり、私たちの生活の質は飛躍的に向上しているが、一方で真理を見る目、洞察力、想像力や主体性がより求められる。また、自分を見る目、自分はどうな生き方をして、今どこにいるのか、何を求めているのかなど、『セルフアセスメント(自己評価)』ができる成人になって欲しい。」と話しました。

人類が想定していなかった新種のウイルスとの長きにわたる闘いの終焉の入口とともに、私たちは日常を取り戻しつつあります。その中で学校は、急速に発展を続ける社会から隔絶しないように、懸命に教育活動をつないだこの期間が私たちに改めて問いかけてくれた教育の意義、役割を再認識し、ポストコロナ時代の、将来につながる学力を育成する教育を創出していかなくてはなりません。中学部・高等部は、建学の精神「高潔善美」のもと、教育目標「研鑽力・発想力・協働力の育成」を目指し、それを実現するため「探究」的な学びを日々の教育活動のひとつの柱とします。

中学部・高等部は、全校生徒1321人はもちろんのこと、教職員140人あまりも含めた全員の Wellbeing を目指し、一歩一歩階段を登ってまいります。今までと変わらぬ皆様からのご支援、ご鞭撻を願ひ申し上げます。

小学部教育の 原点再考

小学部
校長
小泉清裕



本年4月から第19代の校長を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。小学部は新入生82名を迎え、児童数458名、教職員等52名でスタートしました。

昭和26(1951)年に小学部が設置され、念願であった幼稚部から大学までの一貫教育による総合大学としての相模女子大学が完成しました。初年度は1年生13名(女子7名、男子6名)による1学級のみで、教員は3名だったと記録にあります。

当時の目標は「質実で高潔な品格の育成」「愛と奉仕の精神の育成」「堅実な思考力と想像力の育成」「豊かな個性の伸長と実践的態度の育成」「強固な体力と意志の鍛成」の五つがあげられていました。

しかし、この目標は児童にはわかりにくいことを考慮して、21世紀を迎える直前の平成11(1999)年に、児童にもわかりやすく、そして覚えやすい表現に変えました。「素直で賢い子」「思いやりのある優しい子」「ねばりのある強い子」「明るくのびのび元気な子」が教育目標となりました。

同じ時期に、21世紀の教育目標を世界に発信した「ブルームの教育目標分類(2001年改訂)」でも、「あたま」「こころ」「からだ」の3領域が教育の目標として示されています。

この目標について小学校教育で重視すべきことは、精神的な強さを含めた「からだ」の鍛錬と、人間性の根本である「こころ」の領域の育成です。もちろん、認知領域である「あたま」も重要であることは当然ですが、知識の種類や量を増やすことではなく、「学ぶことは楽しい」という気持ちをたくさんの方を通して経験することです。生涯を通じて学びを楽しめる心を培うことが小学校教育の「あたま」の領域でもっとも大切な視点です。

横浜スタジアムの5倍の広い敷地と、土の大きなグラウンドやビオトープ、ヤギのパニラ、多種類の木々と灌木、色とりどりの花、畑や田んぼなどはすべて、教育目標を達成するためのすばらしい教材です。

そして、私たち教職員も子どもたちを囲む環境のひとつとして、主役である子どもたちの成長を紡ぐ伴走者として、あたたかく、しなやかに見守ってまいります。

おかげさまで 120年目

認定こども園 幼稚園部
園長
角田 雅昭



本園の前身、日本女学校附属幼稚園が開園したのは1903年4月です。そこから数えると、幼稚園は本年度で120年目を迎えたこととなります。途中戦禍による木造校舎焼失のため空白期間もありましたが、このように長い時間を重ねてこられたのも、諸先輩方をはじめとした皆様のおかげです。記念すべき年を無事に迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

戦後、学園とともに、本園も現在の相模原市に移転してきました。戦前は、三代將軍徳川家光の乳母をしていた春日局の菩提寺として有名な麟祥院（文京区）に隣接した日本女学校校舎内にありました。校舎1階職員室の隣が幼稚園の部屋でした。すでに焼失しているため、想像するしかありませんが、小さい子どもたちの声がいつも響く笑顔あふれる学校だったのでは…と、思いを巡らしております。ときには、日本女学校の生徒や先生が、一所懸命に話す子どもたちの声を聴いていたことでしょう。

ところで、1994年の『子どもの権利条約』批准から29年、本年4月1日には、『こども基本法』が施行されました。ようやく我が国でも真剣に子どもの権利を擁護する体制が整いました。なかでも、子どもの政策を定めるときに、当事者である子どもの声に耳を傾けなければならぬと明記されたことは、画期的でした。これは開園以来、幼稚園部が大切にしてきたことの一つでもあり、それが国の基本方針として示されたことは感無量の思いがします。

これからは、先を予測することが難しい社会が到来すると言われております。そのような社会において市民として、仲間とともに自分たちの力で、より良い未来を切り拓いていけるように、子どもたちを育むことが、現代における本園の使命であると考えております。これからも本園では、率先して、子どもたちの多様な声に耳を傾けていきたいと思っております。

客員教授のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教授としてお招きし、授業・講演会にて多くの学生や一般の方々が受講しています。2023年度の客員教授の方々をご紹介します。



羽生 宏人

JAXA 宇宙工学研究者。2013年『イプシロンロケット』でグッドデザイン賞金賞受賞。そのほか、受賞歴多数。2018年には開発のプロジェクトリーダーを務めた世界最小衛星打上げロケット(SS-520-5号機)がギネス世界記録に認定。

※ギネス世界記録はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。



金子 修介

映画監督。『信虎』（共同監督作品）でマドリッド国際映画祭 2022 外国語映画部門最優秀監督受賞のほか、平成『ガメラ』三部作、『毎日が夏休み』『デスノート』など監督作多数。『おそろし』などのドラマ演出や著述でも活躍。



ピーター・J・マクミラン

翻訳家・詩人。2008年『百人一首』を英訳し、同年、ドナルド・キーン日本文化センター日本文学翻訳特別賞等を受賞。『伊勢物語』、『万葉集』など多くの古典翻訳を手がけ、2019年には『英語版百人一首かるた』を制作。JICA チェア講師としても活躍。

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

125th Anniversary since 1900

— 基本コンセプト —

女性の活躍を支援し、地域とともに
発展する「開かれた学園」へ



夢をかなえるセンター 特設サイト・SNS の紹介

正課外活動情報サイト

「夢をかなえるセンター特設サイト」・SNSを運営しています!

夢をかなえるセンターは「キャリア形成支援ポリシー」に則り、正課外活動における学生のキャリア形成を支援しています。

このサイトは、学生が参加している社会貢献活動や国際教育をはじめとする正課外活動「Sagami チャレンジプログラム」の紹介や、プログラムへの参加に必要な情報をまとめて掲載することで、学生の皆さんにより積極的に活動へ参加いただき、そしてその成果を多くの方にご覧いただくことを目的として運営しています。

上記のほか、2022年7月より各種 SNS の運用を開始しましたので、是非ご覧ください。



夢をかなえるセンター
特設サイト



Twitter
@sagajo_yumekana

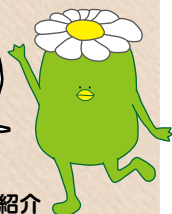


Instagram
sagajo_yumekana



YouTube
相模女子大学連携教育推進課

みんなと
会いたい
がっば!!



相模女子大学
学園キャラクターのご紹介
さがっば・ジョー

相模女子大学の学園キャラクターの「さがっば・ジョー」。学生から発案されたキャラクター。

ジョーは、フランス庭園の池に住みついている精で、学園を見守っている伝説の生き物。学園のみんなに知ってもらえたらうれしいです!

ジョーの Twitter と
Instagram があるがっば!



さがっば・ジョー
Twitter @SagamiCharacter



さがっば・ジョー
Instagram Joe_sagappa



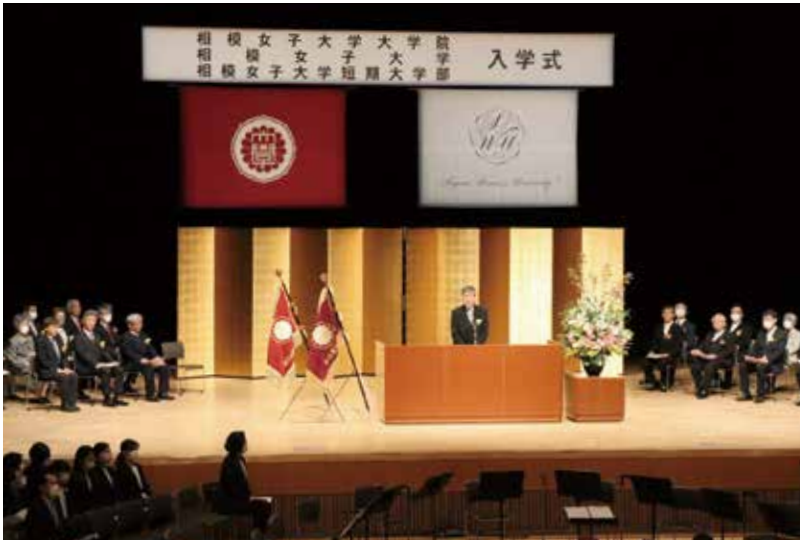
※[QRコード]は株式会社デンソーウェーブ様の登録商標です

特集 2023年度 入学式

大学院・大学・短期大学部 入学式

4月7日(金)、相模女子大学グリーンホールにおいて、相模女子大学大学院・相模女子大学・相模女子大学短期大学部の入学式を挙行了しました。

午前の部では、栄養科学部・人間社会学部、短期大学部の新入生が、午後の部では、社会起業研究科・芸学部の新入生が、晴れの日を迎えました。



田畑雅英学長挨拶

式典は、4年ぶりにご家族・保証人の列席を再開し、マンドリンククラブによるオープニングセレモニーの後、開式されました。

田畑雅英学長より「新入生を迎えることば」、風間誠史理事長、田中百子同窓会(翠葉会)会長より「お祝いのことば」が述べられました。

新入生代表による宣誓では、これからの大学生活への決意をしっかりと述べる姿に頼もしさを感じられました。

式典終了後には、新入生歓迎プログラムとして、アカデミックガウンの紹介が行われた後、夢をかなえるセンターの活動が動画を用いて紹介されました。さらに学生と職員の協働による「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」より、新入生への応援メッセージが贈られました。

最後に、クラブ活動の学生等による新入生を歓迎する動画が紹介された後、吹奏楽部、ダンスクラブ EASTER、その他のクラブ学生、学園キヤクター「さがつば・ジョー」がお祝いに駆けつけ、コラボ演技を披露し、会場を大いに盛り上げました。(総務課)



新入生代表による宣誓



アカデミックガウンの紹介



「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」より新入生へ応援メッセージ



クラブ学生、さがつば・ジョーのコラボ演技

高等部 入学式

4月6日(木)午前、中学部・高等部体育館にて、高等部入学式の開式が宣言されました。今年度は、基本的な感染防止対策を講じながらも、新入生の保護者は各家庭2名までの参加が可能となり、コロナ禍以前と同等の規模で開催がなされました。今年は春の訪れも早く、満開の桜の中での入学式とはなりませんでしたが、新入生の入学式での期待に満ち溢れる表情は、桜の若葉のように生き活きと輝いていました。新入生のみならず、3年間を通じて、自身の掲げる夢や目標を実現すべく、様々な活動に積極的に挑戦して欲しいと願っています。(赤坂)



盛大な祝福を受け新入生入場

中学部 入学式

中学部生活1日目。新入生は真新しい制服に身を包み、元氣よくそれぞれの教室に入っていました。マスク着用の自由を聞くと、数人はマスクを外して新たな出会いを楽しんでおり、日常生活が戻りつつあることを実感する瞬間でした。新入生代表の生徒からは「多くのひととの関わりを大事にし、さらに成長したい」という言葉がありました。改めて学校に通う意義・通うことでできる学びを生徒たちと考え、充実した学校生活を作ってくださいませ。

(堀)



新入生代表の言葉



少し緊張した様子の新入生



中学部新入生 84 名

小学部 入学式

4月10日、お天気にも恵まれ、色とりどりの春の花が咲きそろう中、第73回入学式が行われ、82名(男子32名、女子50名)の1年生が小学部に仲間入りしました。今年度は、4年ぶりに在校生全員が参列し、1年生の入学を祝いました。

入学式が始まり、歓迎の拍手の中、6年生にエスコートされ、5年生がプレゼントとして作った色とりどりのペンダントをつけた1年生が喜びと期待に胸を膨らませて入場してきました。1年生のペースに合わせて歩き、優しく声をかける6年生の姿にも成長を感じられます。1年生は一人ひとり、担任の先生から名前を呼ばれ、「はい」と元気に返事をし、校長先生や理事長先生に祝辞もしっかりと聞くことができました。入学式の中では6年生の歓迎の言葉C2年生による小学部紹介がありました。学園の草花紹介、運動会の全校演技、つなぐ手の日本舞踊の踊り、英語の詩の群読が披露されました。ヤギのバナラソングは在校生全員で歌って紹介され、1年生も一緒に振り付けを真似して楽しみました。これから、友だち、上級生、先生と一緒に楽しい学校生活を送っていきます。

(小勝)



第73回小学部入学式



6年生に名札をつけてもらう1年生

校長先生のお話を聞く1年生

幼稚園 入園式

温かい春の日差しに包まれて、新しい園児が幼稚園に入園しました。

4月3日(月)には、0歳児から3歳児の2・3号認定の入園式がありました。大好きなご家族に抱っこしてもらったり、手を繋いで歩いたりする様子はとても可愛らしく微笑ましい姿でした。また、4月11日(火)は3歳児の1号認定の入園式でした。新しい出会いにわくわくしている子どもや緊張している様子の子どもの表情は様々でしたが、ぬいぐるみの動物が遊びに来ると笑顔が見られ、楽しい式となりました。

入園式を終え、本格的に新年度が始まり幼稚園には子どもたちの賑やかな声や明るい笑顔が溢れています。これから様々な出会いや経験を重ねていく中で、子どもたちが「自分らしさ」を見つけ、自分自身を大切にしながら思いやりの気持ちを育めるように見守っていきたいと思います。大切な乳幼児期にお子様を幼稚園にお預けただけのことに感謝し、幼稚園での生活が温かく彩り豊かな物になるように責任を持って努めさせていただきます。

(谷口)



入園・進級 おめでとう



蝶々さんが遊びに来たよ

学園各部 報告

学園

風間理事長より大学教員2名が 教職員表彰を受けました

3月30日(木)、2022年度教職員表彰式が執り行われました。教職員表彰は、本学園の教育活動において顕著な活動をされた専任教職員を表彰するもので、今年度は、学芸学部メディア情報学科の塚田修一専任講師、学芸学部生活デザイン学科の角田千枝教授が、風間理事長より表彰状を授与されました。

塚田先生は、編著書『大学の相模ガイド―こだわりの歩き方』並びに学内の歴史スポットや遺物・

遺構を紹介解説した「さがしよ歴史マップ」の制作等により、本学の歴史と地域の歴史を結びつけることに貢献されました。

角田先生は、学科学生たちを指導して防火衣のデザインと制作に取り組み、ファッション性と機能性を兼ね備え、制作した学生一人一人の個性も活かした6種の「デザイン防火衣」を完成に導きました。後に相



角田先生



塚田先生

模原市消防局から感謝状を授与され、本学の声価を高めることに貢献されました。二人ともそれぞれの専門性を活かし、これまで積み重ねてきた本学の地域貢献に新たなページを開いたことが教職員表彰に値するものとし、この度表彰されました。(総務課)

大学院・大学・短期大学部

日本語日本文学科

第48回卒業制作展を開催しました

1月11日(火)～22日(日)、本学7号館1階ホールにて第48回日本語日本文学科卒業制作展を開催しました。

原寸(拡大)臨書2点、創作(漢字仮名交じりの書)1点、共同制作の4点を基本とし、8尺×12尺の大作から半紙サイズの小品、美しい料紙に書いた作品など、計28点を出品しました。

ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。

なお、今回の卒業制作展及び書道ゼミ学生の卒業論文題目は、2023年2月5日発行の「美術新聞」5～6面に紹介されました。

(日本語日本文学科・下田)



卒業制作展の様子 (臨書と創作)

生活デザイン学科

2022年度卒業制作展を開催しました

生活デザイン学科では、今年度の卒業制作展を1月31日(火)～2月5日(日)の会

期で本学キャンパス内にて開催しました。

ガーデンホール・イングリッシュルーム・6号館・8号館・9号館の芝生の5箇所

の会場で、本学科の特色である領域横断による学びが結実した、まさに集大成となる作品が並びました。表彰式では田畑学長も列席くださり、思い出深い卒業制作展となりました。コロナ禍ではありますが、会期中には多くの方にお越しいただきました。ご来場いただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

(生活デザイン学科・角田)



受賞者による集合写真



グランプリの表彰



グランプリ タイトル「器」

第12回さがみ発想コンテスト

12回目となる今回の「さがみ発想コンテスト」は、株式会社エヌ・ビー・シー様のご協力により、「これからのカクヨムツタエル」『文具・本・書店』のミライを発想してください」をテーマに、文具・書籍・店舗の新しい存在意義やあり方についてアイデアを募集し、42件の応募をいただきました。

2月15日(水)には、最終審査会を3年ぶりに対面で開催しました。一次審査を通過した6組の発表者によるプレゼンテーションの後に最終審査を行い、グランプリをはじめとする各賞を決定しました。

グランプリには、社会マネジメント学科3年(受賞当時)中嶋美寿希さんの『色と香りで五感を刺激するデジタルペン』が選ばれました。手書き(アナログ)とデジタルの融合であるデジタルペンに、色・香りという付加価値を付けることにより記憶の定着を促すという斬新なアイデアが高く評価されました。今後、優秀なアイデアについては、実現化に向けて検討を進めていきます。

(学事企画課)



発想力豊かな学生の発表

中学部・高等部

2022年度
第45回中学校内合唱コンクール

2019年度以来、3年ぶりの開催となった中学校内合唱コンクール。2月25日の本番では、各クラスが第3校舎文化ホールに清冽な声を響かせました。

2学期からクラス曲の選定、指揮者伴奏者決め、パート分け、リハーサル決めなどを生徒自身が行い、音楽の時間でも練習を重ね、3学期に入ってから朝や放課後に割り当てられた場所で練習を重ねる姿が見られました。コロナ禍においては歌唱活動に制限が多くあり、かつ経験した生徒が一人もいない中で、行事



練習風景

でしたが、各クラスそれぞれに話し合い、工夫をして練習を重ねながら音楽を深めていく様子は、漸く復活したこの行事が、今後更に充実していくことを感じさせるものでした。

(中学部 目崎)



本番の歌唱



演奏前の指揮者

高1MQ(探究活動)「視野を広げる」講演会

高校1年生の探究活動の一環として、「視野を広げる」講演会が2月18日に開催されました。外部の講師の方々から8つのテーマについての講演があり、生徒たちはその話を聞くことにより、探究的な視点や手法が社会でどのように生きるのかを知りました。実社会の諸課題に目を向け、自分たちの問題として考えることを目的としたこの講演会を通じて、生徒たちはこれまでに学んできた探究的な手法が社会でどう活用できるのかを理解し、より広い視野を持つことができました。高校2年生では、自分のキャリアを意識しながらより広く深く探究活動に向き合ってほしいと思います。

(高等部 吉田)



身近な高齢化を学ぶ

2022年度中学部・高等部スキー教室

新型コロナウイルスの影響で開催ができなかった中学部・高等部スキー教室が、3年ぶりに希望者を対象に2023年3月20日(月)から24日(金)までの4泊5日の日程で長野県志賀高原横手山スキー場にて開催されました。本校のスキー教室は50年以上の歴史が

あり、引率教員が講習を行うのが特徴です。参加者58名が、上級・中級・初級・初心者のレベル別に班を編成し講習を行いました。最初は慣れないスキー板のコントロールに苦戦していた生徒も、2日目、3日目には自分の意志でスキー板をコントロールし学年と班を超えた仲間と楽しみながら滑走することができました。

今回のスキー

教室で学んだこと、楽しかった思い出を大切にし、学校生活を送ってほしいと思います。

(高等部 加美山)



晴天での集合写真



長山隊長による開校式

小学部

体験的に学ぶつなぐ手の授業

2年生 日本の伝統文化に触れる

つなぐ手の授業の一つの柱に「日本の伝統文化」の体験があります。元小学部PTA会長で、歌舞伎を始め、オペラなどの舞台演出を手がけていらっしゃる立花寶山先生のご指導をうけて、日本舞踊などを学ぶ時間があります。

3学期は、歌舞伎の隈取体験を行いました。各クラス、1名ずつの代表者が隈取してもらいました。学級の代表者がお化粧によってどんな変わっていく様子に興味津々。「かっこいい！」と興奮状態でした。自然と疑問が湧きあがり、「お化粧の白いのは何?」「どうやったら落ちるの?」「赤いのはなぜ?」などなどの声が上がります。

隈取で、赤色でお化粧するのは「いい人」つまり、善なる人のお化粧だそうです。それに対して「悪い人」は青色でお化粧をし、「人ではないもの」には、緑色でお化粧をするそうです。最後には、手ぬぐいに隈取を写し取りました。

(小学部 太田)



隈取り完成



化粧を受ける代表児童

体験的に学ぶつなぐ手の授業

4年生 手と心で伝えよう

(盲の不自由な方とのふれあい)

4年生のつなぐ手では、難聴者の方と手話を通してコミュニケーションをする時間を設けました。手話通訳士の谷千春先生と3名の難聴者の方、そして、2名の要約筆記者をお招きしての授業です。前半は手話について谷先生から学び、後半は手話や指文字を使って、難聴者の方との交流会をしました。

この日まで、一生懸命覚えて練習してきた手話が、相手に伝わって嬉しそうなお話でもたち。上手く伝わらない時は、筆談したり、「伝える」ためにどんな工夫をしたらよいかを考えて交流をしていました。

子どもたちは、耳が聞こえない人は、生活に大変さを抱えていること、その人たちを支えるお仕事をしている人がいることを知るとともに、自分たちにもできることがあることを学んだ貴重な時間となりました。

(小学部 小勝)



手話でコミュニケーション



手話付きで歌を歌う4年生

認定こども園 幼稚部

卒園式

3月11日、小さな桜の蕾が開き始めた頃、大勢の人に見守られる中、素敵な衣装を纏った幼稚部の可愛い子どもたちの卒園式が開催されました。

コロナウイルス感染症対策で、卒園証書は一人ひとりの手渡しを控え、一人ひとり名前が呼ばれました。担任に名前を呼ばれると、指先までピンと伸ばし手を挙げ、元気に「ハイ!」と返事をする姿、園歌や卒園の歌を堂々とした姿勢で歌っている姿、感極まって涙を流している姿…。短い時間の中に、子どもたちの様々な表情も見られ、子どもたちの心身の成長が感じられた卒園式となりました。



大勢の人に祝福され、緊張と嬉しさでいっぱいの子どもたちの様子



子どもたちの門出を祝う卒園式会場

寂しさを感じながらも、溢れる愛情を携えながら保護者、保育者が共に子どもの成長に喜びを感じ、次へのステップに向けて「ずっと応援しているよ」という気持ちでいっぱいになりました。幼稚部では、子どもの気付きや発想、やりたい!やってみたい!という気持ちを受け止め共感し、それぞれの持つ個性や意欲を豊かに楽しく育んでいけるよう保育計画を進め、皆で共に育ちあえる環境作りを今後も続けていきたいと思っています。

(幼稚部 加瀬)



晴れ晴れとした表情で入場



堂々と元気良く返事をする様子



人生のターニングポイント

齊藤 道子

(昭和54年短期大学部国文科卒)



相模女子大学・短期大学部を卒業し45年を迎えます。現在は福島県いわき市のハワイアンスの近くで駄菓子屋・工房和楽座を営んでいます。

これまでの人生を振り返る中で18～20歳のたった2年間とは言い、宝の時を過ごせたと感謝しております。進学で悩んでいた時に幼馴染の厚ちゃんから相生祭に誘われ、胸ときめかせて校門をくぐると大学の歴史を語る銀杏並木に【鳳雛よ！来たれ！！】大きな看板が目飛び込み衝撃が走りました。この大学で図書館学を目指し国文科に入学した事が人生の扉を開いたのです。生命哲学研究会に入部し、生涯の宝友を得ることが出来ました。

詩人ホイットマンの名言「さあ、出発しよう！悪戦苦闘を突き抜けて！決められた決勝点は取り消すことができないのだ。」更に「楽観主義であれ！」「桜梅桃李・あなたしか咲かせない使命の人生の花がある」私を今尚、鼓舞する言葉です。就職難の壁に直面するも前向きに就活し8社目で就職できました。その後、結婚し2児の母となりました。長男の小学校入学を機に東京を離れて夫の郷里（福島県いわき市）へ移住したことは新たな節目となりました。

海・山と自然の恵みにあふれた環境で子育てしたいとの想いだけで、37才で免許を取得し、地域を知るために統計調査員を26年勤めました。

2011年3月11日東日本大震災。小名浜児童センターに勤務していて、学童保育の子供たちの帰りを待っている時でした。突然の大きな揺れが何度も何度も続き、津波警報のサイレンが鳴り、泣きながらお迎えを待つ子どもたちを前に必死で恐怖心を押し殺しました。携帯電話も繋がらない不安の中、我が家は一部損壊とはいえ皆無事でした。職場は閉鎖を余儀なくされ、いわき市社会福祉協議会に転職。津波被害者支援員として高齢者の見守り・生活再建活動を8年間携わり、退職後は少子高齢化社会の中で子供たちの安らぎの場を提供したいと駄菓子屋を開くことを決意しました。

コロナ禍で学校では黙談・黙笑・黙食を子供たちに推奨されている中で下校後や休日に「おばちゃん、こんにちわ！」と駆けつけ、あれこれ計算しながら駄菓子を選ぶ様子は何とも愛らしい姿です。学区内の幼稚園児がお買い物体験、小学校2年生は町探検で来店する保育や授業の年間スケジュールに当店を組み込む恒例行事は子供たちの笑顔と共に私自身が満たされるひと時です。また、地域貢献の一端に子育てファミリー・サポート支援や高齢者安心サポート支援員を勤めています。私は今日も元気に一歩また一歩とゆっくりと進んでまいります。

2023年6月以降開講講座のお知らせ

社会環境の変化とともに、人々のライフスタイルが変化してきている中、以前にも増して「生涯学習」の必要性が高まっています。本学では、地域の皆様にとっての多様な学びの機会を提供しています。

●春季さがみアカデミー

【講座 3】 能楽入門 講師：藪 克徳 開催日：6月19日、7月3日、7月10日

曜日・時間：月曜日 13:30～15:00

定員：60名 受講料：4,500円 申込締切：6月5日（月）

【講座 12】 ビジネスの社会貢献：商品開発で地域活性化 ※オンライン（Zoom）でもご参加できます。

講師：金森 剛

曜日・時間：土曜日 10:40～12:10 開催日：7月8日、7月15日、7月22日

定員：60名 受講料：4,500円 申込締切：6月26日（月）

さがみアカデミー
ホームページは
こちらから→



●未来志向の女性に向けたリーダーシップ育成講座

対象：就業経験のある女性

開講期間：2023年10月～2024年1月 申込期間：2023年6月5日（月）～9月16日（金）

定員：30名 受講料：148,000円（税込）

※詳細は本学ホームページをご覧ください。

詳細は
こちらから→



【お問い合わせ】 夢をかなえるセンター 生涯学習支援課

TEL：042-747-9047 FAX：042-747-9599

Mail：sagami-info@mail2.sagami-wu.ac.jp（電話受付時間：平日9:00～17:00 土曜9:00～12:00）

2022年度マーガレット募金決算報告

マーガレット募金の収支について、下記のとおりご報告いたします。ご支援いただきました皆様へ厚くお礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

自2022年4月1日 至2023年3月31日

収入の部			支出の部	
募金内容	件数	金額	募金内容	金額
学習活動支援	190	5,105,746円	学習活動支援	940,244円
キャンパス整備	56	421,832円	キャンパス整備	1,264,450円
教育・研究活動支援	44	206,944円	教育・研究活動支援	462,000円
さがっばジョーの活動支援	16	52,000円	特色ある学習活動支援	2,794,297円
指定なし	208	4,055,900円		
計	514	9,842,422円	計	5,460,991円
前年度繰越金	-	60,429,773円	翌年度繰越金	64,811,204円
合計	-	70,272,195円	合計	70,272,195円

■活動内容

「学習活動支援事業」 募集（応募5件 採択4件） 「教育・研究活動支援事業」 募集（応募1件 採択1件）
「キャンパス整備事業」 募集（応募3件 採択1件） 「特色ある教育への支援」 申請（実施3件）

■寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

※氏名等の公表についてご許可をいただいた方のみ掲載しております。

個人（計163名、うち匿名希望57名、未記入11名）

青木 さか恵	安達 修一	有田 雅一	五十嵐 絵理子	石塚 けい子	泉 邦寿	泉田 龍吾	市橋 綾子
岩本 明子	梅林 博人	浦辺 敏子	大谷 昭子	大塚 光子	奥貴 紀文	奥村 裕司	小野田 智行
角田 雅昭	風間 誠史	片岡 朋子	片野 和子	金井 美恵子	金森 剛	上條 美和子	川原 貴美子
木根淵 由美	草野 暁子	久保 茉莉子	熊川 勝	倉田 美智子	小泉 京美	小内 博史	小塩 朝行
小杉 正典	児玉 小百合	後藤 和宏	小松 静子	小南 洋介	齋藤 淳志	齋藤 秀磨	佐藤 藤江
佐光 裕子	穴野 綾子	穴野 美子	品川 利夫	品川 ゆかり	杉江 文子	杉山 誠一	鈴木 哲哉
須田 由美子	澄井 俊哉	清家 正博	高柳 誠	田杭 泰次郎	竹田 智樹	田中 百子	玉田 守
千葉 アグリ	千葉 仁子	富樫 慎治	富永 和江	直井 小百合	中島 和彦	中島 美千代	中野 沙織
中野 チナミ	新平 鎮博	二階堂 充	長谷川 素美	早坂 高一	播磨 明宏	播磨 俊裕	福嶋 美穂
藤澤 和子	船津 雄子	古川 大介	堀野 広美	松草 勝之	松山 文美	水上 由紀	森 映子
森平 直子	森田 耕策	森田 直美	柳沢 香絵	山田 とし子	山本 利昭	山本 幸恵	山本 順子
山吉 菜央	湧田 清隆	湯澤 夏生	吉本 千恵	渡辺 早苗	渡邊 知佳	渡邊 雅史	

法人および団体（計4件）

翠葉会（相模女子大学同窓会）
神奈川ファイリング株式会社

ホームカミングデー出席卒業生一同
株式会社3pm・さんじ

ご寄付のお願いとお申込方法について

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

募金内容

お申込方法 （個人の場合）

①お振込（郵便局または銀行窓口） ②郵送（現金書留）またはご持参 ③自動振替での継続
詳細につきましては、大学ホームページ（<https://www.sagami-wu.ac.jp/>）をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。

●「マーガレット募金」お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



Sagami Women's University

学校法人

相模女子大学